

# “金メダルかじり”で大炎上 河村市長のかつてない窮地



市長の「金メダルかじり」で苦情の電話などが殺到した名古屋市役所

一つのミスが勝敗を分ける——。そんなアスリートたちの真剣勝負の舞台だったオリンピックが開かれている最中、名古屋市の河村たかし市長が「金メダルかじり」で大炎上、進退も問われる事態となった。本人はもちろん、これまで結果的に数々の蛮行やハラスメントを許してきた名古屋市民も、今一度「このままでいいのか」を考えるべきなのだろう。

## ■異常な言動、謝罪文棒読みで火に油

確かに、ほんの一瞬の出来事ではあった。8月4日、市役所を表敬訪問した東京五輪ソフトボール代表、後藤希友投手の金メダルを首にかけた河村市長は、「重てゃあな本当に、これ」と言いながらマスクをさっと外し、がぶりとメダルをかじった。

筆者はその場に居合わせなかったが、後でテレビ局のネット配信映像を確認した。最初に一報を聞いたときは、せいぜいかじるマネをしたのだろうと思ったが、実際にカチンと音がするほど。ネットでさんざん指摘されているように、メダルを下げるひもの部分まで口に入っている。直後は周囲から笑いが起こり、市長は何事もなかったかのようにメダルを首から外し、そのまま後藤投手に手渡しで返した。その後も、いわゆる「あごマスク」のままで「焼酎飲むんならわしも金メダルだわ」などと話し掛け続け

た。コロナ禍で市長自ら呼び掛けていた接触感染、飛沫感染の予防がまったくされなかった。そのずさんさが、まずアウトだった。

しかし、それ以上に問題だったのはメダリストに対する敬意を失していること、前後のやり取りで女性としての容姿や結婚、恋愛などについて執拗に聞いていることだ。本人は否定するが、セクハラやパワハラとも受け取られかねない言動だった。この様子がテレビやネットを通じて拡散、市役所には批判が殺到した。同日午後、記者クラブの求めに応じて出した河村市長のコメントはメダルをかんだ理由について「最大の愛情表現だった」という理解しがたい内容だった。後藤投手の所属先であるトヨタも「不適切かつあるまじき行為」と指摘するコメントを表明。収まらない炎上に市長は翌日午後、市役所でのぶら下がり取材に応じて釈明したが、謝罪文を棒読みする態度などが「謝罪になっていない」などと火に油を注ぐ事態になった。